

令和4年度徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 会議概要

- 1 開催日時
令和4年7月15日（金） 午後1時から午後2時40分まで
- 2 開催場所
西部総合県民局 美馬庁舎2階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 6名出席（うち3名リモート出席）
石田部会長（リモート）、金村委員（リモート）、近藤委員、武田委員、加藤委員、山口委員（リモート）
 - (2) 県関係
藪下局長、東條副局長、安西地域創生観光部長、柿原農林水産部長、土井県土整備部長、橋本政策調査幹 他
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ① 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」の取組状況（令和3年度）と評価について
 - ② その他
 - (3) 閉会
- 5 配付資料
 - 資料1 徳島県西部地域政策総合会議 計画推進評価部会 委員名簿
 - 資料2 令和4年度徳島県西部地域政策総合会議 計画推進評価部会 配席図
 - 資料3 徳島県西部地域政策総合会議 計画推進評価部会設置要領
 - 資料4 徳島県西部地域政策総合会議 計画推進評価部会における「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」の評価について
 - 資料4-1 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」の評価
 - 資料5 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」判定結果及び評価案一覧表
 - 資料6-1 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」DX項目一覧
 - 資料6-2 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」GX項目一覧
 - 資料7 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」の主な取組結果
 - 資料8 「徳島県西部圏域振興計画（第4期）」評価シート

（副局長）

ただ今から令和4年度徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会を開催いたします。

（局長）

本日は、委員の皆様方におかれましては大変お忙しい中、徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会にご出席を賜りましてありがとうございます。また日頃は、県政全般にわたりまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、西部総合県民局におきましては、令和元年9月に、令和元年度から4年度までの4年間を計画期間といたします徳島県西部圏域振興計画（第4期）を策定いたしました。

策定当初におきましては、災害列島、人口減少という二つの国難の打破を掲げていましたけれども、令和2年度からは、これに新型コロナが加わりまして、三つの国難の打破に向けて、地域の皆様方や2市2町のご協力の下、西部圏域の振興施策を進めて参りました。

この計画につきましては、昨年度、地域政策総合会議や計画推進評価部会におきまして、委員の皆様方から頂いたご意見ご提言を基に改善見直しを行ったものとなっております。今年度におきましては、いよいよ計画期間の最終年度を迎える中、当局におきましては、この計画に沿いまして、DX、GXといった新しい技術の活用を図りながら、新型コロナで大きく影響を受けております社会経済活動の回復に向けた取組をはじめ、アフターコロナを見据えた各種施策を鋭意展開しています。

本日は、委員の皆様方からは、当計画や取組に関しまして忌憚のないご意見ご提案を賜りまして、今後の取組や次期計画へ繋げて参りたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(副局長)

この計画推進評価部会は、徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要領第5条第2項に基づき、委員及び専門委員の総数の過半数の出席がなければ開くことができない、と規定されています。本日は、委員7名中6名のご出席をいただいております。会議は有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。

それでは、ここからの議事進行につきましては、規定により石田部会長さんをお願いいたします。

(部会長)

それでは議事に入りたいと思います。まずは、計画推進評価部会の評価手法について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

資料4により評価手法について説明

(部会長)

ただいま事務局から説明がありましたとおり、

- 評価シートの評価単位は、重点項目の下にある中項目
- 評価項目は、令和3年度の取組及び成果、今後の取組方針
- 評価は、順調・要注視・要改善の3段階
- 新たにDX、GXの観点からも評価を実施

となります。

本日は、15の中項目を、重点項目「1から3」と、「4と5」に区切って、事務局から数値目標の達成率や令和3年度の具体的な取組内容等をご説明いただき、委員の皆さんからご意見ご質問をいただいで合議によって評価を進めていくこととなります。会議中、計画の推進に参考となるご意見やご提言などがありましたら、遠慮なくご発言をいただければと思います。

また、DX、GXの取組の評価、こちらは各項目の評価を進める中で、今後の取組等に対するご意見として、委員の皆さんからご発言を頂ければと思います。

会議でいただいたご意見は、西部地域政策総合会議への部会意見として報告し、次期計画となる徳島県西部圏域振興計画(第5期)に反映していただくとともに、今後の事業実施の参考にしていただきたいと思っております。

それではまず、令和3年度の取組と成果について、事務局から重点項目1から3までの説明をお願いします。

(事務局)

資料7及び8により令和3年度の取組と成果について説明

資料 6 - 1、6 - 2 により D X、G X 関連の取組状況について説明

(部会長)

それでは、評価に入っていきたいと思います。「重点項目 1 観光・移住・交流による地域活力の創生」から進めていきたいと思います。

評価の流れですが、中項目ごとに、まずはお一人の委員に、評価に関する意見として、順調・要注視・要改善いずれに評価するのが妥当であるのかご意見をいただきまして、その意見を基に、委員全員で意見を出し合いながら進めていきたいと思います。

各中項目ごとに、評価に関する意見を述べていただく順番は、重点項目 1 中項目 1 は私から意見を述べますので、次の重点項目 1 中項目 2 以降は、資料 1 「委員名簿」の上段の方から順番にお伺いしていきたいと思います。

それでは、重点項目 1 の中項目 1 「アフターコロナを見据えた『にし阿波』プロモーション体制づくり」ですが、こちらは私から発言させていただきます。

評価といたしましては、数値目標も上回っており、特に主要指標は、目標を上回る、丁度ではなく更に上回るようなところでやっている。これらはいずれも D X 関連でして。他の施策も達成して熱心と言いますか、充分に取り組んでいるのかなと思いますので、「順調」ということでどうだろうかと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、重点項目 1 中項目 1 の評価は「順調」というようにしたいと思います。

続いて、重点項目 1 中項目 2 「深化する『にし阿波』魅力づくり」になります。

(委員)

数値目標は全て 100% 達成しており、私の評価は「順調」にしています。にし阿波の魅力づくりとして、コロナ禍で誘客が難しい中、地域の皆さんと一緒にコンテンツづくりに取り組まれてきたことは、とても意義あることと感じています。ただ、これからは外国人観光客が徐々に戻ってくると思いますが、国内外から来訪してくれた方に満足してもらっての再来訪、口コミでの誘客を図ることができるよう、今後も、大歩危や剣山などの素晴らしい景観や観光地、また世界農業遺産に認定されている傾斜地農法や集落など、にし阿波の魅力的な素材を使ったコンテンツづくり、ブラッシュアップに取り組んでいただければと思います。

(部会長)

評価は「順調」ということでございますが、いかがでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、重点項目 1 中項目 2 の評価は「順調」にさせていただきます。

続いて、重点項目 1 中項目 3 「地域を挙げた『おもてなし』態勢づくり」になります。

(委員)

ほとんどの項目が目標達成しておりまして、私の評価としては「順調」でいいのかなと思います。ただ、番号 9 「圏域内での観光消費額」ですけど、目標を 2 万 7 千円から 3 万円に引き上げるようにしています。3 千円の増加ですが、2019 年の圏域観光客数は 1 万 9 千人ぐらいと聞いているので、まだ 6 千万円ぐらい収益を上げていかないといけない。

収益を上げるためにどのように取り組んでいかなければいけないか、お聞かせください。

（地域創生観光部副部長）

観光消費額につきましては未達成ということで、昨年度の目標が2万9,500円であったところ、実績は2万3,866円でした。これはコロナの影響がありまして、地域に訪れていただきます観光客の方が、以前だと近畿や関東の方もいらっしやったのですが、近県、中国四国地域の方が多くなったということと、日帰り観光客が増えたということで、平均にしますとこの消費額になっている状況です。ただ、やはり少しでも多く地域で消費していただきたいので、「千年のかくれんぼ」を含んだブランド商品の拡大であるとか、剣山を中心としたトレッキング、吉野川ウォータースポーツなど新たな商品開発をしまして、それらに関心を持って来ていただける方を増やし、地域での滞在時間が長くなるような形の取組が必要と思っています。それに加えて、まずは来ていただくためのSNSによる情報発信、特に外国人地域おこし協力隊員による外国人目線での魅力発信をする形にしまして、取組をより拡充していきたいと思っております。

（委員）

資料6ページ「観光地域づくりマネージャーの養成数」ですが、去年の評価部会で、観光地域づくりマネージャーを養成するのが目標でなくて、養成したマネージャーに活躍してもらうことを、是非とも検討していただきたいと意見を申し上げましたところ、令和4年度は新たに「小中高生への観光地域づくり研修」を実施していただけたということで、これは私の意見を反映していただけたものと思っております。大変感謝しております。このマネージャーがもっと活躍できる場を更に検討していただければと思っておりますし、引き続き、地域が一体となって観光施策を推進して欲しいと思います。

（地域創生観光部副部長）

観光分野でのデジタル技術を活用した好事例の顕彰制度ですが、ここに観光地域づくりマネージャーの方に参加していただいて、より活躍していただければと思っております。具体的には、選考の場でご意見をいただけるような機会ができればと思っております。

（部会長）

それでは、中項目3「地域を挙げた『おもてなし』態勢づくり」の評価は「順調」ということでしたが、よろしいでしょうか。

（各委員）

「順調」で了承

（部会長）

それでは「順調」というようにしたいと思います。

続いて、重点項目2「豊かな地域環境の次世代継承」の中項目1「美しい自然環境との共生」になります。

（委員）

1項目を除いて達成できており、私の評価は「順調」でいいと思っております。未達成になっている番号20の数値目標は、未達成の要因として、狩猟免許登録者の高齢化が進行し、登録者数が減少とありますが、令和3年度は、その対策にどのように取り組んでこられたのでしょうか。

（保健福祉環境部副部長）

西部圏域の狩猟免許登録者の約80%を、60歳以上の年齢層が占めている状況です。まず、すでに免許を持っていらっしゃる方が効率的に猟を行えるように、剣山地域二ホン

ジカ被害対策協議会におきまして、剣山周辺のニホンジカの生息状況の把握に努め、県猟友会と連携して効率的に猟を行うための支援を行っております。さらに県としましては、若い世代を対象とした取組として、40歳未満の県内在住者を対象に徳島ハンティングスクールを開催して若手の狩猟免許の取得を支援している他、県猟友会にご協力をいただき狩猟経験が少ない方が対象の技術講習を行ないまして、新たな人材確保を進めています。

今後とも、県猟友会や市町など関係機関としっかり連携しまして、引き続き、若手狩猟免許登録者の増加とともに、捕獲強化に向けて取り組んでいきたいと思っております。

(委員)

引き続き、若い世代の方の狩猟免許取得と登録者数の確保に取り組んでいただきたいと思っております。

(部会長)

評価は「順調」ということでしたが、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、中項目1の評価は「順調」ということにしたいと思っております。

続いて、中項目2「良好な地域環境の創造」になります。

(委員)

数値目標は1項目を除いて全部100%ということで、未達成の理由にはコロナの影響があったということなので、実質的には100%に近いということで、評価は「順調」でよろしいのではないかなと思っております。

この中項目に関して、少し要望を述べさせていただきたいのですが、番号22に官民協働型維持管理システムという言葉があります。昔の言い方なのですかね、これはアドプトという事業だと思うのですが、私この言葉が分かりませんでした。大変重要な良い取組だと思うのですが、県内部の話じゃなく県民に対して、どういう風な取組をしてますよと分かりやすく説明するのも必要ではないかと思っております。西部圏域振興計画の中にはその説明が出てきていると思っておりますけど、もう少し県民向けに、県はこのような事業をこういう名称で取り組んでいるとPRしたらいいと思っております。

それと番号23「あわ産LED道路照明灯」ですが、徳島県といえば「LED王国・徳島」とPRしていて非常に分かりやすいのですが、「あわ産LED道路照明灯」が通常のLED照明灯に比べてどれほど優位性があるのか、この文章だけでは分かりにくいと思っております。資料を見てみると、通常のLED照明灯よりも3倍から5倍の寿命があるとか、3割から6割省電力につながるのか、そのような説明もあるので、県民向けにはそのような観点での記載も重要じゃないかなと思っております。

計画の記載上は、補足説明を加えるなど分かりやすく工夫していただけたらと思っております。

(県土整備部長)

官民協働型維持管理システムですけれど、先ほどアドプトと同じようなものかとおっしゃっていただいたのですが、アドプトは、ゴミ拾いだけというものでして、場所を決めずに希望していただいたところ、一定の長さ以上であればどこでも受け付けるシステムになっています。これには道路、河川、港湾、公園もございまして。これに対して官民協働型維持管理システムは、最初に道路や河川の区間をこちらから指定しまして、草刈りを委託事業として契約をして実施していただく制度となっております。場所を限定するのは、道路ですと交通量の問題もあって草刈り自身が危険であったり、通行車両に石が飛ぶこともありますので、まずは区間を限定しています。河川についても、草刈りが必要な区間かつ安

全性が確保できるところで場所を限定しています。それを県ホームページで募集して、地元の町内会や自治会といった有志団体から応募があれば、実施していただくという形で進めています。おっしゃっていただいたように、これを周知や広報していくことは当然大事になってくるのですが、場所が限定されてますので、その辺りを踏まえて、今後考えていく必要もあると思っております。

次にLED道路照明灯ですが、道路照明灯の消費電力は、LEDで100W、オレンジのナトリウム灯で250W、水銀灯で300W程度ありまして、エネルギー消費量、電気代は消費電力にほぼ比例します。「あわ産LED」というのは、県内にLEDの世界的なメーカーがあることからLEDを使った製品を作る会社の集積を目指す「LEDバレイ構想」が策定されており、その中のブランド戦略である「とくしまオンリーワンLED製品認証制度」により認証を受けた道路照明灯のことであり、県として、地場産業育成、地域振興の観点から、認証された製品を取り入れているところであります。

(地域創生観光部長)

今回の計画は令和4年度で最終年ですが、来年度に5期計画を策定いたします。その中では、地域の方が分かりやすい言葉を使って表現させていただきたいと思えます。

(部会長)

評価については「順調」ということですのでけれども、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、中項目2「良好な地域環境の創造」の評価は「順調」にしたいと思えます。続いて、中項目3「環境資源の積極的な活用推進」になります。

(委員)

数値目標を全て上回っておりますし、GX項目もありますが、リサイクルなど環境にも配慮されていて100%達成されているので、私の評価としては「順調」でよろしいかと思えます。

番号29の捕獲鳥獣の地域資源としての活用の取組ですが、令和2年度は未達成であった「食肉処理加工処理頭数」が、令和3年度は目標を達成して実績562頭と、令和2年度実績476頭から1年で飛躍的に増えた結果からも取組の強化にご尽力いただいたと感じています。近年の健康志向により、ジビエは大変注目されておりますので、今後もインターネットを活用した販売促進に取り組んでいただき、更なる販路拡大に努めていただきたいと思います。

また、番号31、にし阿波循環型林業支援機構のにし阿波循環型林業基金について、伐採跡地の植栽に係る経費を支援する基金とあり、素晴らしい取組であると思えます。西部圏域は森林の面積が広大な地域ですので、森林組合、林業事業者、製材業者様の皆様など連携を強化され、森林資源の活用、また防災面からも伐採植栽といった循環型の適正管理を進めていただきたいと思います。

番号29「食肉処理加工処理頭数」ですが、1年で大きく増えた要因となる特別な取組などがあったのでしょうか。

(農林水産部長)

令和2年度はコロナの影響で、外食産業が大きく落ち込みまして、その関係で出荷先が見つからずに処理施設に持ち込まれた鳥獣が処理できない状況となっていました。令和3年度は、外食産業も少しづつ回復傾向となっており処理したものが出て行く、消費されることが進んだのが一番の要因ではないかと思っております。その他の要因としては、ジビエを食

べていただくことが消費者の方には十分に認知されていないので、県では、食材の拡大のため、ジビエの料理研修会や、県全域で行うジビエのイベントなど、消費拡大に向けた取組を推進しており、こうした取組の結果が、処理頭数の増加に繋がっているものと考えております。

(部会長)

評価は「順調」ということですが、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」です承

(部会長)

それでは、この中項目3の評価は「順調」ということにしたいと思います。

続いて、重点項目3「誰もが安全で安心できる地域社会の形成」に入りたいと思います。

中項目1「広域防災・受援体制の確立」になります。まず私から意見を述べさせていただきます。

評価としては「順調」でいいのかなと思います。数値目標は、主要指標も含めまして達成されています。主要指標ではないんですが、DXに関わる番号36「オンラインを活用した『防災』及び『健康増進』講座の実施回数」ですが、当初の目標を大幅に上回り3倍近い実績を挙げて非常に熱心に取り組んでいただいていると思います。そういったところも含めまして「順調」ということにしたいなと思います。

(委員)

番号34の数値目標「地域内におけるUTM座標を活用した研修・訓練の実施」についてですけど、西部防災館においても、目の届きやすい場所に縮尺2万5千分の1のUTM座標が入った地図を掲示しています。西部地域の指定避難所なども記載されているので、より使いやすくなったと感じています。引き続き、UTM座標を訓練に活用して、是非、地域防災力の向上に努めていただきたいと思います。

(部会長)

他にいかがでしょうか。評価は「順調」ということで、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」です承

(部会長)

それでは、中項目1の評価は「順調」にしたいと思います。

続いて、中項目2「災害に備えた着実な基盤整備」になります。

(委員)

私の評価は「順調」にしております。番号37や38の数値目標ですが、いずれも住民の生命に関わる重要な項目であります。特に番号37は、令和元年、そして2年度は実績が未達成であったのですが、令和3年度には達成するところまでできておりまして、引き続き、着実に進めていただきたいと思います。

(部会長)

評価は「順調」ということですが、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」です承

(部会長)

それでは、この中項目の評価は「順調」というようにしたいと思います。
続いて、中項目3「地域で地域を守る活動の推進」になります。

(委員)

私の評価は「順調」でいいと思います。防災の訓練をはじめ全て100%で達成できています。ただ、回数の達成も大事だと思いますけど、実際の災害時のような緊張感を持った訓練、私は専門外なのでちゃんとしたことは言えないのですが、暗闇で子どもやお年寄りを連れて携帯電話のライトを持って歩く訓練とか、膝下ぐらいまでの水の中を歩く訓練とか、様々な状況を想定した訓練を増やしていてもいいのではないかなと思っています。

(地域創生観光部長)

避難訓練は、実態上は市町業務になっていまして、県はこれに協力しております。

また県では、南海トラフ巨大地震の発生時などに、災害対策本部が、万代庁舎に設置できない時、次の徳島中央警察署にも設置できない時は、美馬庁舎に設置することになっていまして、災害対策本部が設置できるように令和元年から2年の間に、美馬庁舎2階を全部1フロアにできるように施設改修しています。災害対策本部をいざ設置するのは西部総合県民局ですので、美馬庁舎から5キロ圏内の職員約20人が初動で集まるようにしており、集まった職員が本部設置できるようにアクションカードを準備しています。アクションカードを使った設置訓練を年数回しており、訓練後にアンケートを実施し、訓練参加者の意見をアクションカードに反映してより使いやすいものに改善しています。

また、地域が活断層地震で被害を受けた時には、救援物資が西部防災館に集まるようになっていまして、県トラック協会と連携して、トラックを使って物資を西部防災館から市町の物資拠点へ配送する実働訓練を実施しています。

今後とも、いざという時に役立つ実践的な訓練を行って参りたいと思います。

(部会長)

今の事務局からの説明でも西部防災館という言葉が何度も出て来ました。防災を議論する時には、西部防災館を抜きにはできない。この中項目には、西部防災館における自主防災組織活性化研修という項目もありますので、ご意見や要望など、何かありましたらお願いします。

(委員)

西部防災館では、年4回自主防災組織活性化研修会を開催しています。ただ、自主防災組織の方々の参加は、なかなかいらっしやらない場合もありまして、これが課題とおもっております。2市2町役場には、自主防災組織活性化研修会チラシ配布のお手伝いをいただいております。今後もお手伝いをお願いしまして、多くの自主防災組織の方に参加していただけるように取り組みたいと思っています。

(部会長)

それでは、評価は「順調」ということでよろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、評価は「順調」にさせていただきます。

続いて、重点項目4と5に入っていきたいと思います。まずは、事務局から主な取組内容の説明をお願いします。

(事務局)

資料 7 及び 8 により令和 3 年度 of 取組と成果について説明

(部会長)

それでは重点項目 4 と 5 の評価に入りたいと思います。

まず、重点項目 4 中項目 1「子どもの育ちをはぐくみ、支える地域づくり」になります。

(委員)

全ての項目で目標を達成しており、私の評価は「順調」と思っております。今後も妊産婦等の相談支援体制の充実を図っていただけたらと思います。

(部会長)

それでは、評価は「順調」ということでよろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」です承

(部会長)

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

続いて、中項目 2「心を寄せ合う地域福祉の充実」になります。

(委員)

中項目の平均達成率は 97% であり、未達成項目は番号 68 と 75 とありますが、評価は「順調」でよろしいんじゃないかと思っております。この分野には色々と書かれていて、施策を進める上での関係者が非常に多いと思っております。例えば、障がい者と向き合うことだけでは解決しないでしょうし、生活保護受給者と向き合うことだけでも解決しないでしょうし、様々な方と連携していると思っております。バランス感覚も必要でしょうし、難しい分野だと思っておりますが、引き続き、関係機関との連携を密にとっていただきながら施策を推進していただけたらと思っております。

(部会長)

それでは、評価は「順調」ということですがよろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」です承

(部会長)

それでは、そのようにしたいと思います。

続いて、中項目 3「健康寿命延伸に向けた地域力の向上」になります。

(委員)

概ね数値目標を上回っておりますし、DX 項目である西部防災館を活用したオンライン講座は、目標の 2 倍以上開催されていまして、DX を効果的に活用されていると思っております。全体的な評価としても「順調」でよろしいかと思っております。

特に気になるのは、番号 82「たばこ・COPD」の取組です。徳島県は、COPD が毎年ワースト上位に位置しています。生活習慣病との関連ではガンや心疾患なども喫煙が原因とも言われることがあり、喫煙者は糖尿病に 1.6 倍程なりやすいといったこともありまして、糖尿病死亡率との関連性も疑われています。受動喫煙についても、喫煙後に呼気に含まれる有害物質は、喫煙前の状態に戻るのに 45 分程かかるという報告もされてい

ます。小中学生への出前講座によりまして、正しく知る機会を設けていただき、非常にありがたいことだと思っています。

番号83「心の健康に関する相談支援体制」は、この中で大変危惧していたところですが、一年を通じて対面相談が難しかったと思いますが、電話体制を拡充されるなど対応していただいております。この中項目は、一貫して効果が結果にすぐに結びつくものではなく、取組の積み重ねにより数年後数十年後に表れてくるものだと思っています。地道な取組を繰り返し実施していくことが重要だと思いますので、引き続き、取組をお願いします。

(保健福祉環境部次長)

まず、受動喫煙防止は、数値目標を達成していますが、糖尿病死亡率の実績は、前年度より悪くなっています。この辺りの関連性は、昨年度、徳島大学と共同研究を実施していますので、その研究成果を踏まえて、引き続き、効果的に事業を実施していきたいと考えています。また、受動喫煙防止は、先ほど委員からお話がありましたとおり、受動喫煙防止と糖尿病予防を図る小中高生への出前講座を実施していますので、その成果が将来的に表れてくるものと考えています。その他の取組として、担当者が飲食店等を訪問して受動喫煙防止に係る啓発を行っており、この成果が受動喫煙防止の実績に表れたものと考えています。

自殺予防については、コロナの影響で対面相談の機会が減少しましたが、電話相談件数は非常に多くなっておりますので、引き続き、対面相談と電話相談ハイブリッドでの相談体制で対応していきたいと考えております。

(部会長)

それでは、評価は「順調」ということで、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、そのようにしたいと思います。

続いて、重点項目5「持続可能な地域経済の推進」を進めたいと思います。

まず中項目1「『にし阿波型もうかる農業』の確立と推進」ですが、こちらは私から発言させていただきます。

評価としては「順調」ということでいいのかなと思うんですが、中身を見ていきますと、数値目標が達成されていないものがいくつかありますし、B判定やC判定になっている施策もあります。ただ、全体としては、この中項目の評価は「順調」でいいのかなと思いました。GX関連である「世界農業遺産ブランドの認証件数」は未達成ではあるけれども、コロナの影響もあって、中々うまくいかなかったところでもあります。番号88も達成できておらずC判定となっておりますが、主要指標ではないが番号89「中核農家モデル」は達成しているので、こういったところを踏まえてトータルでは「順調」でいいのかなというふうに思ったところではありますが、いかがでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、こちらの評価は「順調」というふうにしたいと思います。

続いて、中項目2「森林・林業を核とした『地方創生』」になります。

(委員)

私の評価は「順調」にさせていただきました。番号99、100は未達成ですが、いずれも100%に近い達成率であり、全体としては「順調」でいいのではないかと考えています。

2点お伺いしたいのですが、番号99の主要指標になっている「素材生産量」は2年連続で未達成になっておりますので、これを少しお伺いしたいです。

もう1点は、昨今の世界的な木材不足、ウッドショックとも言われていますが、木材利用が増加している中で、計画的な増産に向けてどのように取り組まれているのか、教えていただきたいと思えます。

(農林水産部長)

1点目の「素材生産量」が2年続けて未達成になっていることについてですが、理由としましては、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で住宅建築が遅延するなど、木材需要が滞留して生産量が減少したためです。令和3年度になると一転、世界的に経済活動の回復が進み、中国での木材需要拡大や海外からの輸送停滞などにより、委員からお話がありましたとおりウッドショックが発生する状況になりました。林業事業者としては令和2年度、主伐しても製材されず滞留してしまうことを回避するため、間伐や植林に重点を置いていましたが、令和3年度は、ウッドショックで急きょ木材を生産しないといけなことから、方針転換して主伐に重点を置きましたが、令和3年度は7月8月にかけて長雨が続いて現場での作業が順調に進まず、冬場は12月下旬から3月上旬にかけて山間部で降雪し、搬出道路の凍結が多くて伐採と搬出が思うようにできず、2年連続で未達成という状況になっています。

こうした中どのように回復させ増産させるのか、が2点目のご質問ですが、私どもとしましては、着実な生産拡大を図るため、まずは、木材を伐り出す人材の育成、新規就業者の育成に取り組むとともに、森林調査する手法にレーザー測量を取り入れるなど、森林情報の効率的な把握手法を促進して参りたいと考えています。そして、林業機械の導入を促進し、生産体制強化、労働者の安全性向上と労働負担軽減を図っていきたくと考えています。こうした取組を進めることにより、効率的で低コストな素材生産体制の構築を支援し、その結果として素材生産量の拡大に繋げて参りたいと考えています。

(部会長)

評価は「順調」ということですが、よろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、中項目2の評価は「順調」ということにしたいと思えます。

続いて、中項目3「国内外との交流を通じた商工業の振興」になります。

(委員)

評価は「順調」ということでいいのではないかと考えています。私は農業をやっているとして、世界農業遺産はニュースになることが多く全国的に認知されてきていると思えます。番号106「『千年のかくれんぼ』ブランドの登録品目数」は数値目標を上回っていますが、このブランド自体の認知度はまだまだ低いのではないかと考えています。このブランドの認知度が上がらなければ、やはり登録しても意味がない。私は「千年のかくれんぼ」って何だろうと、言葉を見てもどういふものか分からないので、どんどん発信していただければと思います。

(地域創生観光部副部長)

「千年のかくれんぼ」ブランドですけれども、私どもが取り組んでおります「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」に関係していただき、外国人にも好まれる観光地になるために、

外国語表記する物産を認証して販売を行っているものであります。平成30年に初回の認証をしまして、これまでに全体で34件登録させていただいています。このブランドは、ブランド認証に留まらず、観光としての取組の中で販路拡大を支援する制度になっていて、4年目となる昨年度は単年度で15件の登録があり、地域の中での認知度も高まってきていると思っております。ただ、ブランドがきちんと認識されるためには、色々な取組が必要かと思っておりますので、私どもとしましては、商談会、物産イベント、ファムツアーなどでのPR・展示・販売なども行っているところであり、昨年度はイベント等で5回実施しています。また、外国人地域おこし協力隊の方と連携しまして、外国人に向けたSNSでの情報発信の中で、観光情報だけではなくブランドPRができる形で進めております。

(委員)

最後の番号107ですけど、サテライトオフィスの誘致は、徳島県はかなり以前から積極的に取り組んでいると思えます。成果も挙げてきていると思ひまして、三好市にもサテライトオフィスが何社か来ております。しかし今、コロナの関係でテレワークが日本全体の流れになっていて、サテライトオフィスの誘致という観点では逆風ではないかと思っております。私は、サテライトオフィスで進出してきた企業とは付き合いがありますが、これら企業は、地元企業とは感覚が全然違う部分があって、仕事をする上や地域活性化の意味で非常に大きな効果があると思ひます。そこで、ここに書かれています雇用者数もそうなんですが、やはり立地企業の数が非常に重要な要素になってくると思ひます。今は逆風なんですけど、地域にインパクトを与える意味でも積極的に取り組んでいただきたいと思います。その時のキーワードが今流行りのワーケーションになるんだろうと思ひますけど、色々な手法を活用して、これまでと変わらず積極的に推進していただけたらと思っております。

(地域創生観光部長)

にし阿波では、平成27年度よりリモートワーク体験ツアーやワンストップ相談窓口の設置など、サテライトオフィス誘致を展開しており、現在2市2町で23社の企業が進出しています。その中で地元雇用者は、昨年度119名となっております。県としましては、サテライトオフィス誘致を進めるという観点でもワーケーションを推進してまいりまして、令和3年6月に県民局や2市2町、管内商工会や観光団体の皆様で構成する「にし阿波エシカルワーケーション推進プロジェクトチーム」を設置しまして、ワーケーション滞在プランの作成を行なうなど、企業の進出支援を行っております。

今後とも、充実したリモートワーク環境をはじめ、地域資源や体験・アクティビティといったワーケーションに関する情報の多言語による発信、サテライトオフィスや地元企業間の交流・連携によるビジネス創出を進めまして、国内外企業のサテライトオフィス誘致を強かに推進していきたいと考えております。

(部会長)

それでは、重点項目5の中項目3の評価は「順調」ということでよろしいでしょうか。

(各委員)

「順調」で了承

(部会長)

それでは、「順調」というようにさせていただきます。

これにて一通り評価を終えました。ここで改めて、委員の皆さんのそれぞれ得意な分野もあると思ひますし、或いはDX、GXのような観点からなど、ご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、評価と議論は、ここまでにしたいと思ひます。

続きまして、本日の会議の会議録の取りまとめ方法について、事務局から説明をお願い

します。

(事務局)

本日の会議の会議録につきましては、事務局で会議概要の案を作成し、委員の皆様にご確認いただいた後、県のホームページで公表をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(部会長)

会議概要について、委員の皆さんによる確認後に公表することによろしいでしょうか。

(各委員)

了承

(部会長)

それでは、そのようにさせていただきます。

以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきます。それでは、事務局にお返しいたします。

(副局長)

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、長時間にわたりまして様々なご意見ご提言をいただき、誠にありがとうございます。

本日いただきましたご意見ご提言につきましては、次期計画とになります「徳島県西部圏域振興計画（第5期）」や日々の施策推進に、しっかりと反映させて参りたいと考えております。今後とも、西部圏域はもとよりでございますが、県政全般に対するご助言をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和4年度徳島県西部地域政策総合会議 計画推進評価部会を閉会します。